

舞

台は1954(昭和29)年から1956(昭和31)年の西九州、大杉栄とともに甘粕正彦と軍に殺害された伊藤野枝の生まれ故郷、西九州、今宿。この年は「第五福竜丸」の久保山愛吉さんが亡くなり、「ゴジラ」が封切られた年である。今宿から少し離れた長崎県北松浦郡御厨(みくりや)は、「日陰茶屋事件」で大杉栄を刺した神近市子の母の生まれ故郷である。この激しい性格の女の生まれ故郷からは、どこからも玄界灘が望めた。

すでに原子力の平和利用が叫ばれ始めた年である。西九州今宿の村長選挙は激烈を極めている。「原子力の平和利用」「企業誘致」をスローガンとする鯨屋の秀一と「今宿を美しいままに」をスローガンとする元庄屋の大淵政吉は今宿の村を2分して激しく対立していた。

その今宿に映画監督を名乗る内田吐夢と脚本家久保田栄太郎、助監督大林忠彦らの一行が訪れた。「わたしは女海賊になりたい」といっていた伊藤野枝と、神近市子をモデルに今宿で映画を撮る計画だという。「海賊八幡船」も描き、海には百艘もの海賊船を浮かべるのだという。「セットはそのままにして観光地にすればいい。」「無償で提供する」というのである。「その海賊船も今宿で造船し、オープンセットはそのまま観光地にすればいい」という。

題名はずばり『玄界灘』である。「寂れた港を埋立てして、今宿の華やかだった時代の港町を再現して撮影する」という撮影隊の案を鯨屋の秀一は選挙の公約に掲げた。

映画監督内田吐夢は復員して東映に入社。内田吐夢はすでに昭和10年代には大監督として『人生劇場』や『土』などを世に出している。「満映」で仕事をしていた内田吐夢は満映理事長甘粕正彦の自殺にも立ち会っている。渾名は「巨匠」。さあ、村は大騒ぎである。選挙に利用しようとする者、埋め立てや造船の利権を獲得しようとする者、娘を映画女優にしようと企む者。日本には「経済復興」とは異なる次元の、深刻な社会問題が芽を吹いていた。映画監督内田吐夢は「会社に『玄界灘』の企画が通りそうだ」といい、実行委員会を作り「融資を募る」といい始める。早い者勝ちで、「映画が実現すれば相当な儲けになる」というのである。内田吐夢一行が滞在する旅館「今宿」は毎晩が大賑わいである。戦争未亡人福子や売り込みにやっきの和子や富士子。人材派遣会社の雄次。

折も折、旅館「今宿」の老婆サチの筆筒貯金が長期滞在中の自称・小説家神近東洋一に盗まれる。映画の撮影隊に疑いをもち始めたのが巡査の保造である。

『玄界灘』のシナリオの準備稿が完成した。それは『七人の侍』を凌ぐスケールと予算であった。クライマックスの戦闘場面では、海賊船に味方する「玄界灘の龍」までが描かれていた。「怪物物はヒットしますから」……。ドラマは驚くべきスピードで結末まで展開する。

スケジュール

公演日	6/27	28	29	30	7/1
開演時間 ※開場は開演の30分前	水	木	金	土	日
14:00開演			★	★	★
18:30開演	★	★			

◆企画・制作/岡部企画

題字/岡部耕大
舞台監督/櫻岡史行
写真/山本悟正
音響/権藤 円

美術/根来美咲
照明/西尾憲一
音響/権藤 円
芝居屋さん社中

◆スタッフ

作・演出/岡部耕大
音楽/野路雄大



今井 徳太郎 (鯨屋の秀一)



小池 雄介 (自称・内田吐夢)



五歩一 豊 (大淵政吉)



高橋 千絵 (伊藤和子)



館形 祐子 (大淵貴子)



森田 香子 (伊藤富士子)



山本 翔三 (自称・神近東洋一)

チケット取扱い 全席指定 発売開始/5月15日(火)

岡部企画/☎044-933-9754 FAX044-933-6406

E-mail: nana5years@yahoo.co.jp

電子チケットぴあ/☎0570-02-9999(音声認識・Pコード: 419-348)

ローソンチケット/☎0570-084-003(Lコード: 31377)

☎0570-000-407(オペレーター対応)

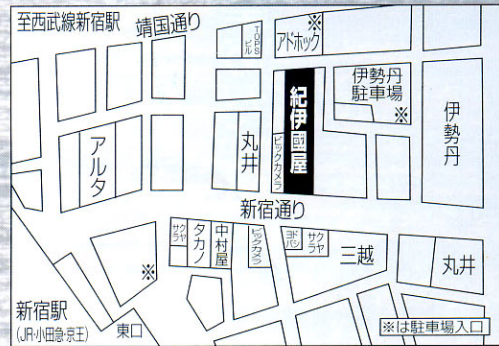
インターネット予約: <http://l-tike.com/> (パソコン・携帯)

店頭販売: ローソン店内Loppiで直接購入頂けます。

e+(イープラス)/<http://eee.eplus.co.jp> (パソコン&携帯)

キノチケットカウンター/店頭販売のみ(10:00~18:30)

新宿駅東口・紀伊國屋書店新宿本店5F



●「新宿」駅東口下車 徒歩5分
●地下鉄丸の内線、都営新宿線「新宿三丁目」駅下車 B7-B8出口